

2026年度 AAMT定時社員総会

日 時 2026年6月24日（水） 14:00～14:45

会 場 AP東京丸の内

議 事

1. 開会の辞
2. 会長挨拶
3. 出席社員の確認
4. 議案審議
 - 第1号報告 2025度事業報告
 - 第1号議案 2025年度決算報告（案）
 - 第2号議案 理事・監事人事（案）
 - 第2号報告 2026年度事業計画
 - 第3号報告 2026年度収支予算
5. その他（社員提案事項ほか）
6. 閉会の辞

4. 議案審議

- 第1号報告 2025年度 事業報告
- 第1号議案 2025年度 決算報告 (案)
- 第2号議案 理事・監事人事 (案)
- 第2号報告 2026年度 事業計画
- 第3号報告 2026年度 収支予算

第1号報告

2025年度事業報告

第1号報告 2025年度事業報告

2026年3月31日

一般社団法人アジア太平洋機械翻訳協会会長 安達 久博

1. イベント委員会では、**年次大会を実施し**、また、**総会の運営**を行い、**盛況**であった。
2. **セミナー委員会では**、セミナーを**6回/年**開催し、**若手翻訳研究会を翻訳通訳研究会と改め**、**シニアの部と若手の部に分けた**こともあり、多数の参加を得ることができた。
3. **AAMTジャーナル「機械翻訳」2号/年の発行を着実に実施した。**
4. 通常の広報活動を継続して行うとともに、**創立35周年記念事業の一環として**、**協会ロゴを刷新し**、**ウェブサイトのリニューアルに着手した。**
5. **AAMT長尾賞、AAMT長尾賞学生奨励賞**の宣伝、募集、選考の活動を行った。
6. **国際会議オンライン参加支援制度はAMTA 2024へのオンライン参加を支援した。**
7. 特許翻訳研究会では、会合を6回開催し、**特許機械翻訳の改善に繋がる自然言語処理を中心とした諸課題について委員や外部講師による研究発表と議論を行い報告書を作成した。**
8. **ポストエディットの健全な普及を促進する目的でポストエディット委員会**が**ガイドラインの発行と普及活動を行った。**

1. 広報委員会

1. ウェブサイト

来年度の協会発足35周年を記念して、ウェブサイトの全面リニューアルを行うことを決定した。リニューアル実施にあたり複数社に相見積もりを依頼し、制作を発注する業者を選定した。

リニューアルに合わせて協会ロゴも刷新することとし、こちらも相見積もりを行った上で制作業者を決定し、新ロゴを採用した。

会員向けサイトでは例年通りにAAMTジャーナルを早期公開し、AAMTセミナーおよび年次大会の広報を行った。

2. SNS

X、Facebook、Peatixでの情報発信を継続した。特に年次大会の告知では、Peatixの有料広告サービスを活用して周知を図った。

3. その他広報活動

薬事日報社にて会長インタビューを掲載し、併せて広告出稿を行うことで35周年関連イベントの告知を実施した。

ポストエディットガイドライン、入会案内、セミナー用リーフレットを作成し、関連団体のイベントでAAMTジャーナルとともに配布、関連団体のセミナー内でも告知を行った。

自動翻訳シンポジウムに出展し、リーフレットやジャーナルを配布して周知に努めた。

2. 編集委員会

年2号の発行号数を目標としてAAMTジャーナル「機械翻訳」の記事を企画・編集し、電子ジャーナルとして発行した。ジャーナル記事の著作権としては Creative Commons Attribution ShareAlike 4.0 を基本とすることにより、投稿された記事が自由に流通することにより、著者とAAMTの利益が最大化することを目指す。また、「法人会員PR」として、機械翻訳に関して、法人会員からPR記事を受け付けた。

3. イベント委員会

当委員会は、今年度も主にアジア太平洋地区において機械翻訳の技術開発、利用促進のために必要な情報の収集および発信の場として、イベントを企画運営した。具体的には、上期には年次総会の運営支援を行い、下期からは年次大会（2025年度は12月/AAMT 2025, Tokyo）を企画運営した。

2025年度の活動は下記のとおりである。

1. 定時社員総会の運営

昨年度同様、定時社員総会の当日運営を支援した。

2. AAMT 2025, Tokyoの開催

今年度も、年次大会を開催し、AAMTの活動を協会内外に発信した。昨年同様、会場開催とZoomでのオンライン同時配信を併用したハイブリッド形式で実施した。

4. セミナー委員会

以下を目的として、年6回、機械翻訳に関する最新情報を発信するためのセミナーおよび研究会を開催した。第17回セミナーより、会員特典として参加費を無料化し、新規会員の獲得につなげた。

1. AAMT会員へのメリットの提供
2. 新規会員獲得のための知名度向上
3. 業界の活性と社会への貢献

活動：

- 第14回 5月20日(火) 大規模言語モデルSwallow～英語から日本語へ言葉の壁を越える～
- 第15回 7月14日(月) MTをマネタイズできるか ～マーケティングフレームワークからヒントを探る～
- 第16回 9月25日(木) AAMTポストエディットガイドライン解説～成功への実践ガイド～
- 第17回 12月9日(火) マンガ機械翻訳の現在地と展望～LLMで解けたこと、解けていないこと～
- 第18回 1月29日(木) PLaMo翻訳:LLMによって進化する機械翻訳モデル
- 第19回 3月18日(水) 第1回AAMT翻訳通訳研究会（旧AAMT若手翻訳研究会）

形式： Zoomによる90分の講演とQ&A、講演後 2 週間のオンライン配信

体制： 石岡委員長を中心に中澤敏明理事、川崎健理事（2025年12月退任）、古谷慶之委員が協力し、石川広報委員長の支援のもと、運営を行った。

5. 長尾賞委員会

2025年度は、2024年度までと同様に、AAMT長尾賞、AAMT長尾賞学生奨励賞の宣伝、募集、選考の活動を行った。

6. 国際化委員会

AAMTをAsia-Pacificの組織として国際化していく方策の1つとして、2014年以降、日本の研究者が中心となって継続的に開催しているアジア翻訳ワークショップ（Workshop on Asian Translation; WAT）をAAMTの国際会議の母体とする検討を継続している。このために、WAT2024に引き続きIJCNLP-AAACL2025（ムンバイ、2025年12月）の併設ワークショップとして開催されたWAT2025をスポンサーとして支援した。WAT2025では4件の研究論文発表および4件のシェアードタスクが行われた。現地での参加者は25名程度、オンラインでの参加が11名程度であり、非常に盛況であった。

WAT2025では新たに日英の特許請求項翻訳タスクを実施した。近年はベクトルベースの自動評価尺度が一般的に用いられているが、評価モデルの学習に含まれないドメインの場合にうまく評価が行えないという知見が得られており、特許ドメインにおいても同様の問題があると思われる。本タスクはこの問題の解決を目指し、幅広く機械翻訳結果を収集し、これに誤りのアノテーションを人手で行うことにより、より良い自動評価モデルの構築の学習データとして利用することを行なっている。AAMTではこの活動を来年度以降も継続してサポートする予定である。

7. 法人強化委員会

本年度はアンチハラスメントポリシーの検討を進めた。検討結果は「アジア太平洋機械翻訳協会のイベントにおけるアンチハラスメントポリシー」として、2025年11月19日に公表された。

8. 学生学会参加サポート事業

2025年度はIAMT関連の国際会議(MT SUMMIT)でオンライン参加のオプションが用意されなかったため、学会参加サポートは実施しなかった。

9. AAMT/Japio特許翻訳研究会

知財のグローバルな流通が加速するにつれ、特許業務の多言語化が進展し、その翻訳の需要も急速に高まっている。このような状況の中で、本研究会は、特許情報のデータベース化とその翻訳の機械化に先進的な役割を果たしている一般財団法人日本特許情報機構（Japio）からの委託を受け、特許の機械翻訳の技術的な課題を把握し、次世代の特許翻訳のビジョンを明確にすることを目標に引き続き活動を行う。

2025年度も委員や外部講師による研究発表を行う会合を6回開催し、特許機械翻訳の改善に繋がる自然言語処理を中心とした諸課題について議論を行い、報告書を作成した。2024年度から検討を行っていた特許請求項翻訳の共通タスクを委員以外の有識者との合同で国際ワークショップWAT 2025内で実施し、2チームの参加があった他、翻訳結果の評価について議論し、来年度以降の実施についての検討を開始している。

定期会合の他に、2025年5月にスイス・ジュネーブで開催されたMT SUMMITにおいて特許・技術文献翻訳に関するワークショップ PSLT 2025 を開催し、招待講演2件と一般講演2件と小規模であったものの、LLM時代の特許機械翻訳に関する議論を深めることができた。

10. ポスト・エディット委員会

昨年度から引き続き、ISOの今後の動向やタグの問題は、ガイドラインのコラム等で触れ、基本はワード（Word）の文章を汎用エンジンや、自社でカスタマイズしたエンジンを使用することを前提とした。

MTをできるだけ信用し、あまり手を加えない上で、ポスト・エディットは正確性を担保した上で、できるだけエディットしないことが重要とした。

MT訳を信じることで高速化でき、訳のブレがなくなるというメリットがある。プリファレンスやリーダビリティにはできるだけ踏み込まずにPEを行うことを目標として、半年間月1回開催とした。

LLM翻訳も視野に入れるが、翻訳の前後に組み合わせて生成AIを利用することはフェーズ2以降で考える。

- 2025年度第5回 2025年4月24日
- 2025年度第6回 2025年5月28日
- 2025年度第7回 2025年6月12日
- 2025年度第8回 2025年7月18日

初版（製本版）を7月24日に発行し、9月25日開催の第16回AAMTセミナーで本ガイドラインが策定された背景から構成、そして今後の活動方針を広く内外に公開した。また、12月2日開催の年次大会にてパネル討論「機械翻訳とどうつきあう？—PEガイドラインと実務の声から見えるこれから—」と題し、参加者と議論した。

協会活動報告 (2025年4月～2026年3月)

予算理事会

- 2026年3月11日

2025年度 定時社員総会

- 2025年6月18日

理事会

- 2025年5月14日 (2025年度 第1回通常理事会)
- 2025年8月27日 (2025年度 第2回通常理事会)
- 2025年10月8日 (2025年度 第3回通常理事会)
- 2025年12月10日 (2025年度 第4回通常理事会)
- 2026年2月6日 (2025年度 第5回通常理事会)
- 2026年3月11日 (2025年度 第6回通常理事会)
- 2026年3月27日 (2025年度 第7回通常理事会/書面決議)

広報委員会

- 2025年5月度
 1. 第20回AAMT長尾賞・第12回AAMT長尾賞学生奨励賞の受賞者発表のサイトを公開した。
 2. ジャーナル82号の会員向けページを公開した。
- 2025年6月度
 1. AAMTジャーナル82号のPDF版を公開した。
 2. AAMT長尾賞授賞式・記念講演に関する広報を行った。
 3. 第2回若手翻訳研究会の動画と資料を公開した。
- 2025年7月度
 1. ポストエディットガイドラインを公開した。
- 2025年8月度
 1. 第16回AAMTセミナーの広報を開始した。
 2. 12月の年次大会のスポンサー・公募発表の募集を開始した。
- 2025年9月度
 1. 薬事日報からの取材を受け、PDFをサイトに公開した。
- 2025年10月度
 1. JTF翻訳祭での広報活動を行った
 2. 年次大会の申し込みを開始した
 3. 第11回セミナーページを作成し、SNS広告やメールなど広報活動を行った。
- 2025年11月度
 1. 17回セミナーの広報を開始した。
 2. 18回セミナーの広報を開始した。
 3. 年次大会の広報活動を行った。
 4. 薬事日報の取材を受けた。
 5. Peatixの広告配信を行った。
 6. AAMTジャーナル83号の会員向けページを公開した。
- 2025年12月度
 1. ウェブサイトとロゴ作成について複数社に相見積もりを行った。
 2. AAMTジャーナル83号のPDFを公開した。
 3. 薬事日報の取材を公開した。
 4. 第12回AAMTセミナーのページを作成し、メールなど広報活動を行った。
- 2026年1月度
 1. ウェブサイト作成と新ロゴ作成の発注業者を決定した。
 2. 19回セミナーの広報を開始した。
 3. 19回セミナーのスポンサー募集を開始した。
- 2026年2月度
 1. 19回セミナーの募集を開始した。
 2. 自動翻訳シンポジウムにおいて、出展し広報活動を行った。
- 2026年3月度
 1. 新ロゴを作成した。

編集委員会

- 編集委員会をオンラインで実施することにより、迅速な編集作業を実現している。
- No.82（2025年6月発行）を発行した。
- No.83（2025年12月発行）を発行した。
- No.84（2026年6月発行）を発行予定。

イベント委員会

リモートワークを推進した結果、イベント委員会の活動もSlackやZoomを活用して実施した。

■ 2025年7月度（2025年度第1回）

1. 年次大会の開催日および会場について
2. 年次大会の開催形態について
3. 年次大会の役割分担（担務）

■ 2025年7月度（2025年度第2回）

1. 年次大会の登壇者および講演内容候補について
2. その他

■ 2025年8月度（2025年度第3回）

1. 年次大会の登壇者および講演内容候補について
2. 年次大会の当日のスケジュール案について
3. その他

■ 2025年10月度（2025年度第4回）

1. 年次大会の登壇者および講演内容について
2. 年次大会のスポンサーについて
3. 年次大会の当日のスケジュール案について
4. その他

■ 2025年11月度（2025年度第5回）

1. 年次大会の申込状況の確認
2. 年次大会のスポンサーについて
3. 年次大会におけるアンチハラスメントポリシーについて
4. 年次大会の海外からの現地参加希望者への対応について
5. 年次大会の招待者について
6. 年次大会の当日運営について
7. 年次大会の公募ポスターセッションについて
8. 年次大会の展示について
9. 年次大会の懇親会について
10. その他

■ 2025年12月度（2025年度第6回）

1. 年次大会の参加者について
2. 年次大会の収支について
3. 年次大会のアンケートについて

AAMT 2025, Tokyo ～LLM時代における翻訳と人間の共進化～

■ 2025年12月2日【年次大会】

10:00-10:10 ◎開会挨拶

10:10-11:40 ◎パネルディスカッション

「機械翻訳とどうつきあう？—PEガイドラインと実務の声から見えるこれから—」

12:00-12:45 ◎ダイヤモンドスポンサーランチオンセミナー

13:15-14:30 ◎公募ポスターセッション（8件）

14:30-15:10 ◎招待講演①「翻訳からコミュニケーションへ——生成AIが変える現場のローカライズ」戸田 広美氏

15:30-16:10 ◎招待講演②「AIの進化と人の役割」吉川 健一氏

16:20-17:00 ◎招待講演③「WEBサービスをローカライズする技術～Localize the Internetを目指して～」上森 久之氏

17:00-17:10 ◎閉会挨拶

17:30-19:30 ◎懇親会

●開催方式：会場でのリアルイベント／オンライン配信のハイブリッド形式

上記日程にて「AAMT 2025, Tokyo ～LLM時代における翻訳と人間の共進化～」と、会場での懇親会を開催した。

昨年度同様、年次大会を有償開催とし、展示ブースも会場で設置した。ハイブリッド形式での開催であったが、関係者を含めて193名が参加した。協賛企業によるランチタイムウェビナーでは、会場参加者向けにランチオン形式でセミナーを実施した。

セミナー委員会

AAMTセミナーの企画/運営

AAMTセミナーの企画運営を行った。

1. 第14回AAMTセミナー「大規模言語モデルSwallow～英語から日本語へ言葉の壁を越える～」

日時：2025年5月20日（火）14:00～15:30

講師：岡崎 直観 氏（東京科学大学 情報理工学院 教授）

登録者数：52名（非会員24名）

2. 第15回AAMTセミナー「MTをマネタイズできるか ～マーケティングフレームワークからヒントを探る～」

日時：2025年7月14日（月）14:00～15:30

講師：阿部 由人 氏（株式会社矢野経済研究所 ライフサイエンスグループ 主任研究員）

登録者数：22名（非会員11名）

3. 第16回AAMTセミナー「AAMTポストエディットガイドライン解説～成功への実践ガイド～」

日時：2025年9月25日（木）14:00～15:00

講師：室田 陽子 氏（AAMT理事・株式会社アメリア・ネットワーク 代表取締役）

森口 功造 氏（AAMT副会長・株式会社川村インターナショナル 代表取締役）

登録者数：227名（非会員105名）

4. 第17回AAMTセミナー「マンガ機械翻訳の現在地と展望～LLMで解けたこと、解けていないこと～」

日時：2025年12月9日（火）15:00～16:00

講師：能地 宏 氏（Mantra株式会社 リサーチャー）

登録者数：75名（非会員10名）

5. 第18回AAMTセミナー「PLaMo翻訳:LLMによって進化する機械翻訳モデル」

日時：2026年1月29日（木）14:00～15:30

講師：今城 健太郎 氏（株式会社Preferred Networks）

登録者数：99名（非会員9名）

6. 第19回AAMTセミナー「第1回AAMT翻訳通訳研究会（旧AAMT若手翻訳研究会）」

日時：2026年3月18日（金）14:00～17:00

講師：応募者14件

登録者数：102名（非会員49名）

長尾賞委員会

- 2025年3月度
 - 1. 第20回AAMT長尾賞および第12回AAMT長尾賞学生奨励賞の募集を開始した。
- 2025年4月度（2025年度第1回）
 - 1. 第20回AAMT長尾賞選考委員会および第12回AAMT長尾賞学生奨励賞選考委員会を設置した。
- 2025年5月度（2025年度第2回）
 - 1. 第20回AAMT長尾賞選考委員会による選考を行い、下記3件の受賞が決定した。
 - (1件目) TOPPAN株式会社 情報コミュニケーション事業本部・
コニカミノルタジャパン株式会社 ICW事業統括部 コミュニケーションDX事業開発部
 - (2件目) 株式会社Kotoba Technologies Japan
 - (3件目) 時事通信社 機械翻訳プロジェクト
- 2025年5月度（2025年度第3回）
 - 1. 第12回AAMT長尾賞学生奨励賞選考委員会による選考を行い、下記2件の受賞が決定した。
 - (1件目) 奈良先端科学技術大学院大学 胡尤佳さん（現在：Karlsruhe Institute of Technology）
 - (2件目) 奈良先端科学技術大学院大学 出口祥之さん（現在：NTT株式会社）
- 2025年6月度
 - 1. 総会に伴って受賞式および受賞記念講演を開催した。
- 2025年12月度
 - 1. AAMTジャーナル No.83 に受賞記念論文が掲載された。

■ 第20回AAMT長尾賞受賞式・記念講演会

• 受賞者1

TOPPAN株式会社 情報コミュニケーション事業本部・
コニカミノルタジャパン株式会社 ICW事業統括部 コミュニケーションDX事業開発部

• 受賞理由:

透明ディスプレイを組み合わせた音声翻訳システムの開発と実用化

音声翻訳システムと透明ディスプレイを組み合わせた多言語コミュニケーションシステムは外国人との音声コミュニケーションを円滑にサポートする斬新なデバイスである。透明ディスプレイ端末を活用することでユーザーとのインタフェース空間を構築しており、かつ外国人にも直感的に利用できる点が高く評価できる。音声翻訳のユーザーの枠を広げ、かつ鉄道会社やホテル、自治体への導入の実績も豊富であることから、AAMT長尾賞の受賞にふさわしい。



■ 第20回AAMT長尾賞受賞式・記念講演会

• 受賞者2

株式会社Kotoba Technologies Japan

• 受賞理由:

同時通訳システムの開発とサービス化

同時通訳システムを日本発のスタートアップで国際的な研究開発力により開発した。この同時通訳技術はすでに一部のテックカンファレンスや政府関連のイベントで活用が進んでおり、さらにiOSアプリとして一般に利用可能になっている。低遅延の音声翻訳技術を搭載した日英のリアルタイム音声翻訳アプリの普及を促進する意味でも高く評価できる。同時通訳は国際化が進む社会でのニーズが大きいため今後さらなる活用が見込まれ、社会へのインパクトが大きく、AAMT長尾賞にふさわしい。



■ 第20回AAMT長尾賞受賞式・記念講演会

• 受賞者3

時事通信社 機械翻訳プロジェクト

• 受賞理由:

英文ニュース作成への機械翻訳導入とLLMを用いた自動校正の開発

ニューラル機械翻訳と大規模言語モデル(LLM)を組み合わせ、時事通信社内の英文記事執筆における翻訳と校正作業の効率化を達成した。時事通信社内の英文ニュース作成を担当する部署では、この自動翻訳・自動校正結果を下訳として活用しており、実務のワークフローの中に生成AIを導入している点が高く評価される。生成AIによる校正の効果を検証するとともにプロンプトも公開されており、透明性および公益性が高い。機械翻訳および自動校正を活用した翻訳ワークフローのモデルケースともなっており、AAMT長尾賞にふさわしい。



■ 第12回AAMT長尾賞学生奨励賞

• 受賞者1:

胡 尤佳 (Yuka Ko)

奈良先端科学技術大学院大学（現在： Karlsruhe Institute of Technology）

• 受賞対象論文:

"Optimizing Speech Translation for Low Latency and High Robustness"

奈良先端科学技術大学院大学 Sakriani Sakti教授の指導のもとに、2024年度奈良先端科学技術大学院大学の博士論文としてまとめられたものである。

• 受賞理由:

本論文は、頑健なEnd-to-End音声機械翻訳の実現に向けた種々の問題に対する研究成果をまとめた博士論文である。利用可能なデータを活用しつつ、様々な工夫により目標タスクのデータ不足の影響を軽減するシンプルな試みにより効果が得られることを示しており、有用性が期待できる。以上の理由から、本論文はAAMT長尾賞学生奨励賞にふさわしいものとする。



■ 第12回AAMT長尾賞学生奨励賞

• 受賞者2:

出口 祥之 (Hiroyuki Deguchi)

奈良先端科学技術大学院大学 (現在：NTT株式会社)

• 受賞対象論文:

"Interpretable Neural Machine Translation from Translation to Post-Editing"

奈良先端科学技術大学院大学 渡辺太郎教授の指導のもとに、2024年度奈良先端科学技術大学院大学の博士論文としてまとめられたものである。

• 受賞理由:

本論文は、近傍探索と後編集に基づくニューラル機械翻訳時代の用例ベース翻訳に関する研究成果をまとめた博士論文である。提案されている翻訳のアプローチは用例に立脚した機械翻訳が高速かつ用例からの修正が解釈可能な形で行えるという点で有用性が高く、近傍用例探索の高速化は技術的独創性も高い。以上の理由から、本論文はAAMT長尾賞学生奨励賞にふさわしいものと考えられる。



AAMT/Japio特許翻訳研究会

- 2025年5月度（2025年度第1回）
 1. 新任委員の紹介
 2. 2025年度の研究会活動について
 3. 2025年度PSLTワークショップについて
 4. 特許請求項タスクの立ち上げについて
 5. 研究計画（研究テーマ）について
- 2025年7月度（2025年度第2回）
 1. 研究発表（河野委員）
 2. 2025年度PSLTワークショップの結果について
 3. 特許請求項タスクの立ち上げについて
- 2025年9月度（2025年度第3回）
 1. 研究発表（外部講師）
 2. 特許請求項タスクについて
- 2025年10月度（2025年度第4回）
 1. 研究発表（外部講師）
 2. 特許請求項タスクについて
 3. 2026年度特許情報シンポジウムの準備について
- 2025年12月度（2025年度第5回）
 1. 研究発表（外部講師）
 2. 特許請求項タスクについて
 3. 2026年度特許情報シンポジウムについて
 4. 次年度以降の活動方針について
 5. 研究報告書について
- 2026年1月度（2025年度第6回）
 1. 研究発表（外部講師）
 2. 研究報告書について
 3. 特許請求項タスクについて
 4. 2026年度特許情報シンポジウムについて
 5. 2026年度の研究会について
- PSLT 2025（2025年6月24日 スイス・ジュネーブ）
 - 招待講演1：特許庁 村上様
 - 招待講演2：WIPO Pouilquen様
 - その他一般発表2件

2025年度末（2026年3月31日）現在の社員数：

法人会員：67法人（2025年度末 67法人、入会4法人、退会8法人）

個人会員：99名（2024年度末 99名、入会16名、退会19名）

第1号議案

2025年度決算報告（案）

第1号議案 2025年度決算報告（案）

1. 収支計算書

一般会計
(1) 収支計算書
 自：2025年4月1日
 至：2026年3月31日

(単位：円)

科目	予算額	決算額	備考
収益の部			
1. 入会金収入	60,000	27,000	入会 法人2社、個人7名（入会金免除有）
2. 会費収入	5,960,000	5,166,000	法人94口、個人98名（うち学生会員6名）
3. イベント収入	2,256,000	1,579,600	年次大会参加費、懇親会費。セミナー参加費
4. 協賛金収入	2,300,000	2,640,000	イベント協賛金収入
5. Japio受託収入	5,982,141	4,498,798	AAMT/Japio研究会受託収入
6. 雑収入	0	27,730	受取利息
当期収益合計(A)	16,558,141	13,939,128	

（単位：円）

科目	予算額	決算額	備考
費用の部			
1. 会議活動費	310,000	23,375	理事会
2. 広報費	1,195,000	863,965	HP管理費、広告費
3. 事務局管理費	2,670,000	1,870,707	事務委託費、事務局経費
4. 他団体交流費	1,720,000	1,220,000	JTF、言語処理学会会費。スポンサー費。WAT
5. イベント費	3,934,000	4,269,175	長尾賞、総会、年次大会、セミナー
6. 編集委員会費	200,000	181,429	ジャーナル制作費（印刷、デザイン）
7. 租税公課	200,000	149,600	収入印紙。消費税
8. Japio受託事業費	5,884,100	4,234,670	AAMT/Japio研究会受託経費
9. 各種事業費	2,206,000	134,010	ポストエディット、ロゴ制作
10. ソフトウェア償却	80,960	80,960	
11. 予備費	1,000,000	0	消費税を租税公課へ
当期費用合計(B)	19,400,060	13,027,891	
税引前当期正味財産増減額(A)-(B)	-2,841,919	911,237	
法人税住民税及び事業税(C)	75,000	91,000	
当期正味財産増減額(A)-(B)-(C)	-2,916,919	820,237	
前期繰越正味財産額(D)	29,464,361	35,869,613	予算の前期繰越は前年度予算の次期繰越金額
次期繰越正味財産額(A)-(B)-(C)+(D)	26,547,442	36,689,850	

2. 正味財産増減計算書

自：2025年4月1日
至：2026年3月31日

(単位：円)

科目	金額	
I 経常収益		
1. 受取会費		
年会費	5,166,000	
入会金	27,000	
2. 総会収益		
懇親会費	369,600	
3. 年次大会収益		
参加費	493,600	
懇親会費	257,400	
協賛金	2,585,000	
4. セミナー収益		
参加費	459,000	
協賛金	55,000	
5. 受託収益		
AAMT/Japio研究会受託収入	4,498,798	
6. その他収益		
受取利息	27,730	
経常収益 計		13,939,128

科目	金額	
II 経常費用		
1. 事業費		
諸謝金	1,485,598	
旅費交通費	1,345,457	
租税公課	10,000	
支払手数料	20,320	
事務委託費	873,295	
事業費 計		4,234,670
2. 管理費		
印刷費	32,690	
会議費	1,982,640	
旅費交通費	39,279	
通信費	112,082	
消耗品費	16,183	
HP管理費	493,725	
広告宣伝費	1,713,130	
接待交際費	854,740	
減価償却費	80,960	
諸会費	110,000	
租税公課	149,600	
支払手数料	370,351	
謝金	126,000	
事務委託費	1,450,933	
事務委託費（年次大会）	501,772	
ジャーナル制作費	181,429	
記念品（長尾賞）	92,600	
外注費	388,850	
賞品・賞金	85,000	
雑費	11,257	
管理費費 計		8,793,221
経常費用 計		13,027,891
当期経常増減額		911,237
III 経常外収益		
経常外収益計		0
IV 経常外費用		
経常外費用計		0
税引前当期正味財産増減額		911,237
法人税、住民税及び事業税		91,000
当期正味財産増加額		820,237
前期繰越正味財産額		35,869,613
次期繰越正味財産額		36,689,850

3. 貸借対照表

2026年3月31日

(単位：円)

科目	金額
I 資産の部	
1. 流動資産	
現金	40,170
普通預金	32,445,505
未収入金	4,608,798
前払費用	130,389
前払会費	60,000
流動資産合計	<u>37,284,862</u>
2. 固定資産	
有形固定資産	
有形固定資産 計	0
無形固定資産	
ソフトウェア	404,800
減価償却累計額	<u>384,560</u>
無形固定資産 計	20,240
投資その他の資産	
投資その他の資産 計	<u>0</u>
固定資産合計	<u>20,240</u>
資産合計	<u><u>37,305,102</u></u>

科目	金額
II 負債の部	
1. 流動負債	
未払金	167,886
未払費用	53,690
前受会費	120,000
預り金	33,076
未払法人税等	91,000
未払消費税等	<u>149,600</u>
流動負債合計	<u>615,252</u>
負債合計	<u>615,252</u>
III 正味財産の部	
前期繰越正味財産額	35,869,613
当期正味財産増減額	820,237
正味財産合計	<u>36,689,850</u>
負債および正味財産合計	<u><u>37,305,102</u></u>

4. 財産目録

2026年3月31日

(単位：円)

科目	金額	科目	金額
I 資産の部		II 負債の部	
1. 流動資産		1. 流動負債	
現金	40,170	未払金	167,886
普通預金	32,445,505	セミナー賞品代	(50,000)
三菱東京UFJ銀行①一般	(16,496,773)	ロゴ制作費	(110,000)
三菱東京UFJ銀行②長尾賞	(491,049)	AAMT/Japioデータ処理費	(17,866)
ゆうちょ銀行	(656,625)	未払費用	53,690
AAMT/Japio		前受会費	120,000
PayPay銀行	(14,801,058)	預り金（源泉税）	33,076
未収金	4,608,798	未払法人税等	91,000
Japio 受託収入	(4,498,798)	未払消費税等	149,600
スポンサー費	(55,000)		
年会費	(55,000)		
前払費用	130,389		
前払会費	60,000		
流動資産合計	<u>37,284,862</u>	流動負債合計	<u>615,252</u>
2. 固定資産		負債合計	615,252
有形固定資産	0	正味財産	<u>36,689,850</u>
無形固定資産	20,240		
ソフトウェア	(20,240)		
投資その他の資産	0		
固定資産合計	<u>20,240</u>		
資産合計	<u>37,305,102</u>		

自：2025年4月1日
至：2026年3月31日

（単位：円）

科目	決算額	内訳		備考
収益の部				
1. 入会金収入	27,000	個人会員入会金	7,000	7名(1,000*7)
		法人会員入会金	20,000	2社(10,000*2)
2. 会費収入	5,166,000	個人会費	460,000	92名(5,000*92)
		学生会費	6,000	6名(1,000*8)
		法人会費	4,700,000	67法人94口分
3. イベント収入	1,579,600	総会懇親会	369,600	56名(6,600*56)
		AAMT2025参加費 会員	225,000	45名(5,000*45)会場
		AAMT2025参加費 会員	75,000	25名(3,000*25)オンライン
		AAMT2025参加費 学生会員	0	
		AAMT2025参加費 非会員	121,000	11名(11,000*11)会場
		AAMT2025参加費 非会員	72,600	11名(6,600*11)オンライン
		AAMT2025参加費 非会員学生	0	
4. 協賛金収入	2,640,000	AAMT2025懇親会	257,400	39名(6,600*39)
		セミナー参加費	459,000	2025年度6回開催
		AAMT2025協賛金	880,000	ダイヤモンド（会員）2社（440,000*2）
5. 受託収入	4,498,798		1,100,000	ゴールド（会員）5社（220,000*5）
			440,000	シルバー（会員）4社（110,000*4）
			165,000	シルバー（非会員）1社（165,000*1）
		セミナー	55,000	1社（55,000*1）
		AAMT/Japio研究会	4,498,798	(財)日本特許情報機構
6. 雑収入	27,730		27,730	受取利息
当期収益合計(A)	13,939,128		13,939,128	

自：2025年4月1日
至：2026年3月31日参考資料：説明資料
(単位：円)

科目	決算額	内訳		備考
費用の部				
1. 会議活動費	23,375	総会会場費等	23,375	理事会Zoom費用等含む
2. 広報費	863,965	WEBサイト HP管理料	863,965	HP更新料、レンタルサーバー等
3. 事務局管理費	1,870,707	事務経費 通信費	80,272	郵便代、プラスチックメール等
		事務経費 消耗品費	16,183	名刺等
		事務経費 支払手数料	325,315	税務申告、役員登記、振込手数料
		事務経費 印刷費	8,680	資料、宛名ラベル等印刷
4. 他団体交流費	1,220,000	事務局運営費	1,440,257	公益総研事務委託費・事務局長 年会費
		日本翻訳連盟	60,000	翻訳祭スポンサー費
		言語処理学会	50,000	賛助会費
			55,000	スポンサー費
5. イベント費	4,269,175	WAT	1,000,000	スポンサー費
		長尾賞	92,600	記念品等
			1,980	支払手数料
			6,968	消耗品、通信費、印刷費
		総会	344,465	会場費
			359,700	懇親会費
			112,220	Zoom等
		AAMT2025Tokyo	1,512,720	会場代
			429,000	懇親会費等
			66,000	講師謝礼
			82,335	支払手数料 (Payvent)
			388,850	外注費
			45,000	賞金
			214,889	印刷費、通信費、交際費等
		セミナー	60,000	講師謝礼
			40,000	賞品
		事務委託費	512,448	公益総研事務委託費
6. 編集委員会費	181,429	AAMTジャーナル	181,429	制作費 (印刷、デザイン)
7. 租税公課	149,600		149,600	消費税 (予備費より)
8. Japio受託事業費	4,234,670	受託事業費	3,361,375	AAMT/Japio研究会経費
		事務委託費	873,295	公益総研事務分
9. 各種事業費	134,010		134,010	ロゴ制作費等
10. ソフトウェア償却	80,960	無形固定資産	80,960	ソフトウェア (2021年7月～5年償却)
当期費用合計(B)	13,027,891			
税引前当期正味財産増減額(A)-(B)	911,237			
法人税住民税及び事業税(C)	91,000			
当期正味財産増減額(A)-(B)-(C)	820,237			
前期繰越正味財産額(D)	35,869,613			
次期繰越正味財産額(A)-(B)-(C)+(D)	36,689,850			

監査報告書

私たちは一般社団法人アジア太平洋機械翻訳協会の2025年度の収支計算書および正味財産増減計算書、2026年3月末現在の貸借対照表および財産目録について監査を行いました結果、本協会の2025年度の決算諸表が適法かつ公平に表示されているものと認めます。

2026年5月19日

一般社団法人アジア太平洋機械翻訳協会

監事 田中 英輝

監事 古谷 祐一

第2号議案

理事・監事人事（案）

第2号議案 理事・監事人事（案）

以下の方々を、2026年～2027年度の役員候補者として提案いたします。

■ 理事候補（19名）

安達 久博（株式会社サン・フレア）
石岡 映子（株式会社アスカコーポレーション）
石川 弘美（株式会社十印）
出内 将夫（富士通株式会社）
岩下 雅寛（TOPPAN株式会社）
内山 将夫（国立研究開発法人情報通信研究機構）
奥 麻里（マインドワード株式会社）※新任
後藤 功雄（愛媛大学）
小林 明（一般財団法人日本特許情報機構）
須藤 克仁（奈良女子大学）

園尾 聡（株式会社東芝）
褚 晨翠（京都大学）
富山 亮太（フリットジャパン株式会社）
中澤 敏明（東京大学）
永田 昌明（NTT株式会社）
長瀬 友樹（国立情報学研究所）
二宮 崇（愛媛大学）
室田 陽子（株式会社アメリカ・ネットワーク）
森口 功造（株式会社川村インターナショナル）

■ 監事候補（2名）

田中 英輝（国立研究開発法人情報通信研究機構）
古谷 祐一（株式会社ロゼッタ）

退任理事

以下の方々は、任期満了に伴い、2025年度をもって理事を退任いたします。

■ 理事

川崎 健（コニカミノルタ株式会社）

菅谷 史昭（マインドワード株式会社）

第2号報告

2026年度事業計画

第2号報告 2026年度事業計画

1. 広報委員会では35周年記念としてロゴ、WEBサイトを刷新し、ブランドの普及を強化する。
2. 編集委員会は定着した年2号の発行号数を目標として、AAMTジャーナルの発行を維持する。
3. イベント委員会は35周年記念国際会議と国内年次大会を二日に分けて奈良で開催する。
4. セミナー委員会は引き続き定期的にセミナーおよび研究発表会を開催する。
5. 長尾賞・長尾学生奨励賞は現運営を維持する。
6. 組織運営が円滑に進められるように規程等の拡充を検討する。
7. 国際化に資するべく、WAT2018-2025に引き続きWAT2026 をスポンサーとして支援する。
8. AAMT/IAMT関連の国際会議への参加を希望する学生への会議参加費のサポートを継続する。
9. AAMT/Japio特許翻訳研究会はWATの特許請求項翻訳タスクの結果を踏まえ、その評価方法を含めた諸課題に取り組む。

2026年度の理事担務を下記のとおりとする。

担務名	担務内容	担当理事（敬称略）
会長	理事会の召集、法人業務執行	【新理事会で決定】
副会長	会長補佐	【新理事会で決定】
事務局長	事務局統括	奥麻里
財務	会計管理	永田昌明
広報委員会	ウェブサイト、SNS、広報	石川弘美（委員長）、岩下雅寛、褚晨翠
編集委員会	AAMTジャーナルの編集・発行	内山将夫（委員長）、石川弘美、出内将夫、後藤功雄、園尾聡
イベント委員会	年次大会・総会の企画運営	森口功造（委員長）、出内将夫、奥麻里、園尾聡、富山亮太、長瀬友樹、室田陽子
セミナー委員会	セミナーの企画運営	石岡映子（委員長）、石川弘美、出内将夫、後藤功雄、中澤敏明、室田陽子
長尾賞委員会	長尾賞・長尾賞学生奨励賞	二宮崇（委員長）、須藤克仁、永田昌明
国際化委員会	協会の国際化、MTSummit対応	中澤敏明（委員長）、内山将夫、褚晨翠、森口功造
法人強化委員会	協会の法人としての強化	小林明（委員長）、安達久博
学生学会サポート事業	学会参加等の学生支援	須藤克仁（委員長）、二宮崇
AAMT/Japio特許翻訳研究会	研究会、シンポジウム、ワークショップの企画・運営	須藤克仁（副委員長）※本研究会委員長は理事ではない有識者

1. 広報委員会

1. 35周年記念ブランディング

- **ロゴマークの刷新**：35周年を機にデザインを一新し、全媒体で統一した新ブランドイメージを展開。
- **WEBサイト・デザインリニューアル**：UI/UXを改善し、**英語発信の強化**および35周年特設ページを設置。
- **国際会議の広報**：35周年記念国際会議に向けた認知拡大と集客。

2. 会員特典・情報発信の高度化

- **AAMTジャーナルの早期公開**：論文・記事を迅速に電子公開し、会員向け情報の**即時性と希少性**を向上。
- **SNS運用の継続**：X、Facebookを活用した、イベントの迅速な発信。
- **情報集約ハブ化**：機械翻訳に関する最新知見を迅速に集約し、ポータル機能を強化。

3. 広報ターゲットの拡大と連携

- **翻訳者層へのアプローチ**：翻訳専門媒体への露出を通じ、個人会員の参加を促進。
- **業界団体との共同広報**：翻訳・通訳関連団体と連携した相互広報を実施。
- **ポストエディット（PE）普及対応**：実務者・企業双方へ向けた適切な情報提供。

2. 編集委員会

年2号の発行号数を目標としてAAMTジャーナル「機械翻訳」の記事を企画・編集し、電子ジャーナルとして発行する。ジャーナル記事の著作権としては Creative Commons Attribution ShareAlike 4.0 を基本とすることにより、投稿された記事が自由に流通することにより、著者とAAMTの利益が最大化することを目指す。また、「法人会員PR」として、機械翻訳に関して、法人会員からPR記事を受け付ける。

3. イベント委員会

当委員会は、今年度も主にアジア太平洋地区において機械翻訳の技術開発、利用促進のために必要な情報の収集および発信の場として、イベントを企画運営する。具体的には、下期（2025年度は12月/AAMT 2025, Tokyo）に開催している年次大会をその場として位置づけ、業界が潜在的に抱えている課題の共有や情報不足を解消する一助になることを目的とする。年次大会はAAMTの国際化推進を下支えできるような中核のイベントにすべく、発展的、段階的に拡大してゆくことを計画している。また、前事業年度から、通常総会時に実施する招待講演の運営も担う。

2026年度の活動計画は下記のとおりである。

1. 通常総会招待講演の運営

昨年度同様、招待講演の当日運営を担う。

2. AAMT 2026, Nara/(ハイブリッド)の開催

今年度は、国際会議と国内年次大会を二日に分けて奈良で実施する。運営については国際化委員会と協力し、実施の形態については、昨年度同様ハイブリッド形式での開催を想定する。このイベントでは機械翻訳の活用事例、業界トレンド、技術革新、その他MTに関連する技術領域を対象に、最新の情報をタイムリーに発信する場として位置付ける。会員のみならず非会員の参加者を促すことで、当協会の露出を増やし、会員増につなげることで、業界団体としての発展につなげたい。

4. セミナー委員会

定期的（年5～6回）に機械翻訳に関する最新情報を発信するためのセミナー、研究発表会を開催する。

目的：

1. AAMT会員へのメリットの提供（会員無料、非会員有料）
2. 新規会員の獲得
3. 業界の活性および社会への貢献

活動計画予定：

5月、7月、9月、11月、1月（日時内容未定）
3月：第2回AAMT翻訳通訳研究会

形式： zoomによる講演とQ&A（90分）、講演後2週間のオンライン配信

体制： 石岡委員長および中澤理事に加え、出内理事、後藤理事、室田理事を新たに迎え、石川広報委員長および古谷委員の運営支援のもと、効果的な運用を図る。

5. 長尾賞委員会

2026年度は、2025年度までと同様に、AAMT長尾賞、AAMT長尾賞学生奨励賞の宣伝、募集、選考の活動を行う。また、それらの活動に加えて、AAMT長尾賞、AAMT長尾賞学生奨励賞の存在を広めるために、より効果的な宣伝の方法について検討を行う。

6. 国際化委員会

AAMTをAsia-Pacificの組織として国際化していく方策の1つとして、2014年以降、日本の研究者が中心となって継続的に開催しているアジア翻訳ワークショップ（Workshop on Asian Translation; WAT）をAAMTの国際会議の母体とする検討を継続している。このために、WAT2018-2025に引き続きWAT2026（AAFL 2026のワークショップ、11/6-10, 横琴島, 中国）をスポンサーとして支援する。

また、アジア各国の機械翻訳の現状など（研究レベルや実社会応用など幅広く）の情報共有を行うための枠組みを用意するなど、アジア各国の連携をより強固にすることを検討し、AAMTのAsia-Pacificでの活動を活性化する契機とする。

予算額が昨年度の100万円から150万円に増えているが、これは昨年度から実施している特許請求項翻訳タスクのデータ整備費用および評価費用を支援するためである。

7. 法人強化委員会

一般社団法人として、組織運営が円滑に進められるように規程等の拡充を検討する。

8. 学生学会参加サポート事業

COVID-19の影響により始まった国際会議のオンライン開催・ハイブリッド開催については、徐々にオンサイト開催への回帰が始まっているものの、出張を伴わない形で比較的安価に参加ができるという面でハイブリッド開催は今後も継続するものと期待できる。

AAMT/IAMT関連の国際会議への参加を希望する学生への会議参加費のサポートを本年も継続する。AAMTと今後の機械翻訳産業・機械翻訳研究開発を担う学生との接点とする。補助を受けて参加した学生にはAAMTジャーナルへの参加レポートの寄稿を依頼し、学生への支援と同時に会員向けのコンテンツの充実を図る。

9. AAMT/Japio特許翻訳研究会

知財のグローバルな流通により、特許業務の多言語化により特許情報の翻訳需要は非常に大きくなっている。このような状況の中で、本研究会は、特許情報のデータベース化とその翻訳の機械化に先進的な役割を果たしている一般財団法人日本特許情報機構(Japio)からの委託を受け、特許の機械翻訳の技術的な課題を把握し、次世代の特許翻訳のビジョンを明確にすることを目標に引き続き活動を行う。

本研究会は、特許機械翻訳の改善に繋がる諸課題を対象とした幅広い研究テーマを扱い、委員による研究発表や外部講師を招いての講演を行う会合を年5～6回開催する。近年機械翻訳は大規模言語モデルを用いる手法が主流となりつつあるが、特許ドメインの知見を活用することによるさらなる性能向上の可能性を検討する。特に2026年度は昨年度実施した国際ワークショップWATの特許請求項翻訳タスクの結果を踏まえ、その評価方法を含めた諸課題に取り組む。

また、隔年開催となっている特許情報シンポジウムをオンライン形式で開催し、LLM時代の特許翻訳・特許情報処理に関する情報交換と議論の場を提供する。

第3号報告

2026年度収支予算

第3号報告 2026年度収支予算

自：2026年4月1日
至：2027年3月31日

(単位：円)

科目	予算額	概要
収益の部		
1. 入会金収入	60,000	新規入会 法人5口、個人10名を想定
2. 年会費収入	5,460,000	法人100口、個人100名(うち学生10名) を想定
3. イベント収入	1,953,000	年次大会参加費、AAMTセミナー参加費、懇親会費
4. 協賛金収入	2,050,000	イベント協賛金
5. Japio受託収入	4,384,348	AAMT/Japio研究会受託収入
6. 雑収入	0	
当期収益合計(A)	13,907,348	

科目	予算額	概要
費用の部		
1. 会議活動費	310,000	総会・理事会など
2. 広報費	1,295,000	AAMTホームページ管理費、広告費
3. 事務局管理費	2,241,260	事務委託費、事務局経費
4. 他団体交流費	2,220,000	JTF、言語処理学会の会費、スポンサー費等
5. イベント費	5,186,010	総会、年次大会、セミナー開催経費、長尾賞
6. 編集委員会費	200,000	ジャーナル制作費
7. 租税公課	200,000	収入印紙、消費税
8. Japio受託事業費	4,555,660	AAMT/Japio研究会経費
9. 各種事業費	567,600	HPリニューアル
10. ソフトウェア償却	20,420	
11. 2026年度提案	2,000,000	国際イベント
12. 予備費	1,000,000	
当期費用合計(B)	19,795,950	
税引前当期正味財産増減額(A)-(B)	-5,888,602	
法人税住民税及び事業税(C)	70,000	
当期正味財産増減額(A)-(B)-(C)	-5,958,602	
前期繰越正味財産額(D)	36,689,850	前年度決算の次期繰越正味財産額
次期繰越正味財産額(A)-(B)-(C)+(D)	30,731,248	

自：2026年4月 1 日
至：2027年3月31日

収益の部

(単位：円)

科目	予算額	内訳				備考
			口数	単価	金額	
1.入会金収入	60,000	法人会員	5	10,000	50,000	
		個人会員	10	1,000	10,000	
2.年会費収入	5,460,000	法人会員	100	50,000	5,000,000	
		個人会員	90	5,000	450,000	
		学生会員	10	1,000	10,000	
3.イベント収入	1,953,000	総会懇親会	55	6,600	363,000	
		年次大会参加費 会員	1	480,000	480,000	
		年次大会参加費 非会員	1	160,000	160,000	
		AAMT年次大会懇親会	50	15,000	750,000	
		AAMTセミナー参加費 会員	250	0	0	
		AAMTセミナー参加費 非会員	40	5,000	200,000	
4.協賛金収入	2,050,000	AAMT年次大会協賛金	1	2,000,000	2,000,000	
		AAMTセミナー協賛金	1	50,000	50,000	
5.受託収入	4,384,348	AAMT/Japio研究会	1	4,384,348	4,384,348	AAMT/Japio研究会受託収入
6.雑収入	0			-	-	
収益合計	13,907,348					

参考資料：費用の部 詳細
(単位：円)

自：2026年4月 1 日
至：2027年3月31日

費用の部

科目	予算額	内訳		備考
1. 会議活動費	310,000	理事会・監事会	会議費	200,000
			交際費	110,000
2. 広報費	1,295,000	ウェブサイト	HP管理費	400,000
		広告費	広告宣伝費	220,000
			ノベルティ作成	300,000
			印刷費	30,000
			バナー広告	165,000
			薬事日報広告	180,000
3. 事務局管理費	2,241,260	事務経費	通信費	150,000
			消耗品費	50,000
			支払手数料	500,000
			印刷費	10,000
		事務局運営費	事務委託費	1,511,260
			雑費	20,000
4. 他団体交流費	2,220,000	日本翻訳連盟	年会費	60,000
			スポンサー費	55,000
		言語処理学会	年会費	50,000
			スポンサー費	55,000
		WAT	補助金	2,000,000

科目	予算額	内訳		備考	
5. イベント費	5,186,010	長尾賞	記念品	60,000	
			支払手数料	5,000	
			雑費	5,000	
		総会	会場・会議室	357,000	
			懇親会費	378,000	
			通信費	15,000	
		オンライン会議利用料	Zoom利用料	200,000	
		AAMT年次大会	会場・会議室	300,000	
			講師謝礼	200,000	
			懇親会費	750,000	
			交際費	100,000	
			外注費	1,805,430	
			支払手数料	70,000	
			通信費	30,000	
			広告宣伝費	150,000	
賞品	45,000				
雑費	100,000				
AAMTセミナー	講師謝礼	120,000			
	賞品	40,000			
	運営アルバイト	40,000			
イベント事務	事務委託費	415,580			
6. 編集委員会費	200,000	AAMTジャーナル	制作費	200,000	
7. 租税公課	200,000			200,000 収入印紙、消費税	
8. Japio受託経費	4,555,660	AAMT/Japio	研究会経費	3,642,500	AAMT/Japio研究会受託経費
			租税公課	2,000	
			AAMT負担経費	911,160	公益総研へ委託費用分
9. 各種事業費	567,600	HPリニューアル		567,600	
10. 減価償却	20,420	ソフトウェア減価償却		20,420	
11. 2026年度提案	2,000,000	国際イベント	会場利用料など	2,000,000	
12. 予備費	1,000,000			1,000,000	
総額	19,795,950			19,795,950	